

【初級クラス】

- ・太極 1, 2, 3、平安二段、ピンアンその 1、これらより難易度の低い形で演武すること
- ・初級クラスで入賞経験がある者は不可
- ・形試合経験 3 年未満を目安とするが、各団体代表者の判断に委ねる

【中級クラス】

- ・平安三・初・四・五段、ピンアンその 2, 3, 4, 5、撃砕 1, 2、これらより難易度の低い形で演武すること
- ・中級クラスで入賞経験がある者は不可

【上級クラス】

- ・自由形
- ・形の難易度は不問

試合形式 フラッグ、トーナメント制とし、赤白に分かれて勝敗を決する。

審判員 5 審制（主審 1 名 副審 4 名）または 3 審制（主審 1 名 副審 2 名）とする。

試合方法 赤・白の選手がコート内で同時に形を演武する。

演武形について

小学生の 初・中・上級	基本形・普及形	1 回戦から決勝まで同一形の演武可
中学生の 初・中級以下	基本形・普及形	1 回戦から決勝まで同一形の演武可
中学生上級/ 高校生以上 初・中・上級	基本型・普及形・ 指定形・ 自由（得意）形	決勝は準決勝までに使用した形は演武不可 （競技前にコート記録員から用紙をもらい、 演武する形名を記入し提出する）

各流会派基本形（型）一覧 \*抜粋

少林寺流（錬心館）系	千唐流系	全空連系
汪輯（ワンスー） 南光（アーナンクー） 拳手法（ケンシュホウ）	前進後退 基本型 2 基本型 3 四方割 四方拝	太極 1・2・3 平安初～5 ピンアン初～5 撃砕第 1・第 2

（順不同）

コートの中に入ったところから判定対象とする。

選手は斜め入場

選手はコート外の角両端部分で礼

コート内の開始線へ進み、開始線で審判に礼←ここから判定対象

赤から形名宣言、各自で用意の構えに

演武開始

終わったら開始線で審判に対し礼

真っすぐ後ろに下がり（回れ右でも後ずさりでも OK）

コート外で判定を待つ  
判定後に礼、互い礼で下がる

勝敗の決定 主審・副審による旗により上がった旗の数が多い方が勝者となる。  
技の完成度を判定の基本とする。

判定材料について（順不同）

- ・ 技及び着眼等の正確性
- ・ 技の強弱、緩急及び全体の調和
- ・ 各々の技が持つ意味の的確な表現
- ・ 安定感、完成度、確実度
- ・ 難易度（難しい技が入っている、足技がある等）  
例）ふらつきながら難しい形と、確実に正しく易しい形、であれば確実な方が良い
- ・ 形に入る前、形ではない部分も見る（歩き方、礼の仕方、態度、形の名前の言い方、姿勢等）
- ・ ふらつき程度（グラグラしてしまっているか、こらえることが出来ているか）
- ・ 自信を持っているか
- ・ 全体と細部の両方を見る  
（全体的な流れ、整い方、緩急のつけ方、力強さ、立ち方、足の力の入れ方、目線手の握り等）
- ・ 形により異なるが、開始戦に戻っているか
- ・ メガネは基本的にかけてはならない。その他、ヘアピンなど金物類はすべて禁止。
- ・ 不必要な効果音的な呼吸音（息吹以外）は減点対象となる
- ・ 四股立ちなどの腰の高さが不自然に低すぎる場合、判断基準として重要視しない  
（低ければ良いというものではない）

失格

- ①形を中断
- ②形名の申告間違い
- ③形間違い（すり替え）は演武後主審が副審を集めて失格とする
- ④コート内での礼を忘れた場合（開始線での始めと終わりの礼）